

国立大学法人

奈良女子大学

記念館 一般公開

旧奈良女子高等師範学校本館《重要文化財》

平成29年4月29日(土・祝)
～5月5日(金・祝)

午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

特別展示

生活に寄り添う 工学技術



冷房による
身体の冷えを
防ぐ服



日常生活での
モノ探しを
手助けする服



紫外線計測
カチューシャ

特別講演

演題：お茶の水女子大学と奈良女子大学のキャンパス

講演者：お茶の水女子大学 元岡 展久 准教授

4/30(日) 午前10時～午前11時30分

生活工学共同専攻説明会

4/30(日) 午前11時30分～正午

5/3(水・祝) 午後1時45分～午後2時15分

百年ピアノコンサート

演奏者：山根 えりか 氏

5/3(水・祝)、5/4(木・祝)

各日 午前11時～午前11時30分

午後2時30分～午後3時



入場無料
予約不要です

交通

近鉄奈良駅①出口から徒歩約5分
JR奈良駅から市内循環バス
近鉄奈良駅前下車徒歩約5分
※車での来場はご遠慮願います。

連絡先

奈良女子大学 総務・企画課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3220
FAX.0742-20-3205

記念館ホームページ

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/faculty/kinenkan/index.html>



お茶の水女子大学全景
(昭和11年撮影)



奈良女子大学全景
(昭和45年撮影)



奈良女子大学 記念館について



奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は1908(明治41)年3月に設置され、翌年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908(明治41)年2月からはじまり、翌年10月には主要な建物が完成しました。現在、奈良女子大学記念館としている建物は、奈良女子高等師範学校本館としてこのとき建設されたものです。

設計は京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が行いました。

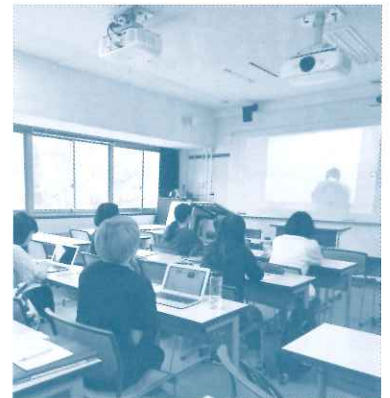
木造二階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフティンバー形式をとっており、屋根には頂塔およびドーマー窓が設置されていることにあります。1階は中央に廊下が配され、これを挟む形で7室が設置されています。建物両端にある階段で2階に上ると、フロア全体が大きな講堂となっています。講堂内には柱は用いられず、中央部に二重に織り上げた天井には明かり取りの窓が配され、広々とした空間が広がります。

1994(平成6)年2月から6月にかけて改修工事が行われ、同年12月27日に正門および守衛室と併せて重要文化財に指定されました。その後も空調設備工事・外壁改修など、その時々適切な修理を行い、2014(平成26)年12月25日から2015(平成27)年12月にかけては、これまでにない長い時間をかけて大規模な耐震補強工事を実施しました。この工事に際しては、文化庁・奈良県の指導を受けて、歴史的建造物の文化的価値を損なうことのないよう、細心の注意を払い設計、施工がなされました。

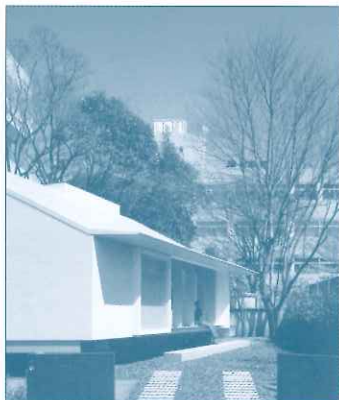
日本館は建設以来、改変された箇所はほとんどありません。現在も2階講堂内部には奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子がそのままに並び、開校時に購入した最も古い国産ピアノのひとつであるとされる「百年ピアノ」が置かれ、往事を偲ぶことができます。

特別展示 生活に寄り添う工学技術

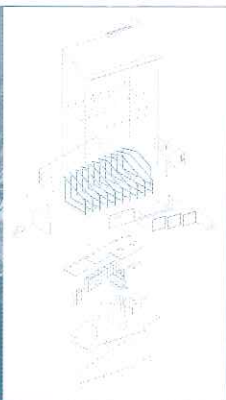
折り紙の数理に基づく
スモッキングデザイン



奈良女子大学、お茶の水女子大学間の遠隔講義



Ocha House
(ユビキタスコンピューティング実験住宅)



触感をバーチャルに
再現する装置



(アルプス電気株式会社)



足底圧リアルタイム計測靴

奈良女子大学は、平成28(2016)年にお茶の水女子大学と共同して生活工学共同専攻を設置しました。生活工学共同専攻では、生活者視点からの工学の推進、そして人と暮らしを中心とした物づくりの実践を通じて、領域融合型の生活工学教育・研究を展開しています。安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学的手法に基づき解決できる女性人材を育成しています。

今季の特別展示では、生活工学共同専攻における教育と研究の理念および成果を、パネルや研究機材の展示により紹介します。本学とお茶の水女子大学の新しい教育・研究の試みである、生活工学共同専攻の意義と可能性を感じていただけましたら幸いです。